

(1) 日本放送協会からのヒアリング

- ・ VFMは一時点での調査概要。こういった研究を積み重ねていき、経時的に分析して、あるべき受信料の額、視聴者の評価などについて大きなトレンドを見ながらNHKでご判断いただきたい。(宍戸構成員)
- ・ 我が国でも居住情報の活用ができれば、契約収納活動の向上が見込めるものと認識。受信機未設置の申告を必要とするような制度が活用できれば、契約収納活動も少しは変わってくると思う。(NHK)
- ・ 住民基本台帳の活用の可否について、市町村長の個別判断に委ねられる状況はなかなか困難。曖昧な段階での利用は判断が難しい。法解釈上どうするのが妥当か、専門家の知見なども得て研究すべき。(清原構成員)
- ・ 収納率、支払率の向上については、現行法の範囲内では実現困難と書かれた上で、諸外国の事例を紹介しているが、現行法の枠組みを変えることも含めて検討してほしいということによいか。(北構成員)
- ・ 契約収納活動において、コストが全く見合っていない実情をどうにかすべき。放送を視聴できないのであれば受信料を払わなくてもいいという考え方に立てるならば、B-CASカードなどで鍵をかけ、受信料を支払う人のみ受診可能としつつ、有事の場合には開放することも考え得る。(奥構成員)
- ・ 有料放送のように、スクランブルをかけて受信料を払った方のみ解除するのも一つの方法だが、NHKは放送法で全国あまねく電波をとどけることになっている。技術的には可能であるが、今のNHKの立場からいうとなかなかできないと考えている。(NHK)
- ・ テレビ非保有者にとっては、通信による放送番組の視聴がなければ受信料を払う根拠もないため、支払率の数字をあげていくことは難しいのではないかと。したがって、今後は通信による放送番組の配信が不可欠なのではないかと思う。NHKは民放に比べてできる環境にあるため、先進的に進めて頂きたい。(三尾構成員)
- ・ 契約を申し出る仕組みができればありがたいが、自らテレビを所持していて契約を申し出る数も相当限られており、少しでも支払率をあげていくための研究をしていかないとならない。テレビ放送の常時同時配信は、可能な限り速やかに実現させ、スマホ等にも放送をお届けしたいと考えている。ハイブリットキャスト、見逃しサービスなどについても研究を進めている。(NHK)
- ・ 法律などの整備が必要だが、公共放送として全ての者に届けるというのを目標にし、テレビを持たない人からもミニマムの収入をいただくこととするなどもあり得る。何をもち「公共」たりえるのか、それをどうやって担保するのが問われている。(三膳構成員)
- ・ 制作だけではなく、社会的意義のある情報を国民の皆様にお届けする、流通させることまでが公共放送の役割だと考える。端末が変わっていく場合にどう対応していくかというのが目下の課題。(NHK)
- ・ 受信機を設置していないという申告をしない者は設置と判断するという制度とするのであれば、視聴者が負担している納得感、何を負担しているのかということが理解されることが絶対的に必要。(長田構成員)

(2) 第一次取りまとめ骨子(案)について

【全体について】

- ・ 3ページの最後の○に書いてある内容を、今後も引き続きしっかり守ると言うことをもっと前面に押し出せるといい。(鈴木構成員)
- ・ ネットでのサイマル放送等、ネット経由の放送をきちんと制度として位置づけることが必要。(鈴木構成員)
- ・ 全体を通して中心的な視点が視聴者視点であるということは非常に重要。高齢者、障害者、外国人等への地域情報、災害情報の提供だけでなく、子どもや青少年の視点も踏まえたニーズ把握も重要である。(清原構成員)
- ・ 放送は、多くの人に視聴されて支持を受けなければ公共性を失ってしまう。視聴者第一という目標は明快な形で書いてほしい。(岩浪構成員)
- ・ 従来のようにテレビ受信機でテレビ放送を視聴するものだけが「放送」というのではなく、より広い世界観で、放送の制度にほころびがでている部分についても直していき、その上で双方向性など新しいサービスができるようにしてほしい。(奥構成員)
- ・ 「1. 環境変化」のところに、視聴者の番組への参加が多様になっている点をライフスタイルの変化として追加してほしい。(近藤構成員)

【個人情報保護について】

- ・ 個人情報保護の検討について、早いタイミングでルール化が必要。次の段階でもう少し書き込んでいただきたい。(長田構成員)
- ・ 個人情報の取扱いは大切であり十分な議論が必要だが、それと同時に、ユーザのパーソナライゼーションや最適化を可能とするなど、スマート化に向けた議論もしてほしい。(岩浪構成員)

【公共放送の在り方について】

- ・ 受信料制度については、払ったものが戻ってくるという視点だけでなく、公共放送の持つ公共的価値まで考える必要があるのではないか。(鈴木構成員)
- ・ 良質な公共放送がその国のソフトパワーになっているという視点から、それをどう支えるかを考えなければ、国際放送等をみんなで支え合うという感じになっていけないと思う。NHKが信頼できる公共放送として、我々が負担していくような雰囲気を作り上げていくことが重要なのではないか。(鈴木構成員)
- ・ 新たな時代の公共放送については、全国あまねくお届けするという役割やネット時代への適応といった点も反映していただきたい。また、公共的価値を支える役割についても明確にいただきたい。NHKのガバナンスは客観的な視点から議論されるべきであるという指摘は重要であり、NHKはオープンマインドで共に公共放送を守るという方向で整理していただきたい。(清原構成員)
- ・ 地域情報の発信の仕方については、NHKの内部管理の指標として再定義するべき。ネット活用業務については、メディアの環境変化、放送サービスの補完という位置づけについて、一定の解を見いだすべく検討してほしい。(大谷構成員)